

情 報

全国歯科技工士教育協議会

－開催報告－

歯科技工士学科 助教授 藤口 武

平成15年度全国歯科技工士教育協議会の総会，理事長・校長会議，教務主任会議が，5月15日（木），16日（金）の両日，全国の歯科技工士養成校62校の理事長，校長，教務主任，計147名の参加のもとに東京プリンスホテルを会場として開催された。

大会開催に先立ち15日の午前11時より開催された役員会は，末瀬会長（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）が議事進行を行い協議に入った。協議事項は1. 平成15年度総会，理事長・校長・教務主任会議の開催内容説明，2. 平成15年度事業計画についての説明があり，平成16年度総会，理事長・校長・教務主任会議開催地を中部地区で実施するよう要請があり，中部地区から協議し決めさせてもらうとの返答があった。3. 歯科技工士実習施設指導者講習会の実施予定の報告があり，平成15年度は6月24日（火），25日（水）の両日，愛歯技工専門学校においてテーマを「歯科技工士教育における実習指導のあり方」とし実施する。平成16年度の実施予定は未定とのことである。4. 夏季指導者講習会を，平成15年度は8月8日（金）（歯科技工学会前日）に北海道の旭川グランドホテルでテーマを「動物も歯が命－スポーツ歯学の現状と今後の展望」とし実施する。平成16年度は7月30日（金）明倫短期大学で実施するよう依頼された。5. 実技研修会の関東地区での開催は6月15日（日）白水貿易の協賛で，テーマを「オールセラミックスの概要と技工操作について」とし，埼玉歯科技工専門学校を会場に実施される（本学より五十嵐講師，丸山助手が参加）。また8月6日（水）松風の協賛でテーマを「新しい審美補綴に対応するための歯科技工」とし松風東京支社を会場とし実施される。6. 平成16年度専任教員講習会（4日間）は開催地を中国地区とし，岡山・広島地区の学校で協議し決めることとなった。7. 歯科技工士国家試験問題集の編集・発刊について当番校に対し協力依頼がある。8. 平成16年以降の教本および教材の斡旋について，田上順次理事（東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校）を委員長とした委員会を発足した。既に委員会は開催され，全国歯科技工士教育協議会の法人化についておよび歯科技工所管理（構造設備）についての協議がされているとの報告があり了承された。

13時より開会式があり本学からは古田理事長，下河辺学長，佐野教務部長，藤口助教授が出席した。

その後理事長・校長会議が58校，78名の参加で開催され，本学より古田理事長，下河辺学長，佐野教務部長が出席した。テーマは『時局問題』で，各地域での平成15年度の入学者数，平成14年度卒業生の就職状況についての討議が行われた。取り巻く環境は厳しく，全国的に入学希望者の減少傾向が見られた。平成15年度の合格者数は受験者数3660名に対し2742名，そのうち入学者は定員2778名中2495名であった（超過率0.90）。九州地区（8施設）のみが超過率1.03となり他は全て入学者が定員を下回った。平成14年度入学者の留年・退学者数は全国で入学者数2566名に対し留年者56名（2.18%），退学者175名（6.82%）であった。地区別では北陸・信越地区（6施設）が入学者133名に対し留年者10名（7.5%），退学者が15名（11.28%）と最も高い割合を示した。最も低い数値を示したのは北海道地区であった。

同時進行で62校，69名の参加による4グループに別れた教務主任会議が行われた。藤口助教授が出席し，教育カリキュラム・修業年限・資格試験について協議した。カリキュラムの大綱化については，修業年限と同時に考えてゆかなければ現行では不可能との意見が大半を占めた。資格試験は現状での学科目の出題内容，出題数，出題形式が全国的に不統一であり，試験実施日が異なる等の問題を解決するために全国統一試験が望ましく，実技試験も採点方法，基準が完備すれば実施可能との意見が大半を占めた。学生の臨床実習の実施についても技術の向上を踏まえ，実施させたいとの意見が大半を占めた。

14時30分より「今後の歯科技工士養成方策を考える」のテーマでシンポジウムが開催された。シンポジストの瀧口徹厚生労働省医政局歯科保険課長からは歯科技工士の資質を高めるため学生定員を1学級40名から35名に改正するとの報告ならびに，歯科技工物を安定的・効率的に供給するための歯科技工所の構造設備について，これまでの対応ならびに今後の方針の説明があった。これは，日本歯科技工士会からの要望を受け，宮武光吉鶴見大学教授が主任研究者となり検討してきた平成14年度の厚生労働科学研究「歯科技工所における歯科補綴物等管理制度の構築に関する研究」ならびに日本歯科技工士会からの要望である，「良質な義歯等の歯科技工物を安定的かつ効率的に供給するため，歯科技工所の構造設備基準の明確化を図ってほしい」旨について歯科技工士法第二十四条に係わる厚生労働

情 報

省の見解を示し、歯科技工士の質の確保という視点で、今後、省令等を改正する方向で検討を開始した。同改正は平成15年度中を予定しており、改正に当たり現行の歯科技工所運営に支障を来すことのないよう経過措置期間をおくと報告された。

中西茂昭日本歯科技工士会会長は、歯科技工士の環境整備のため努力してゆくための一方策として、国政に参加しなければならないと決意し、次回選挙に歯科技工士会より立候補者を出すことを報告があった。

渡邊嘉一厚生科学研究主任研究員は大綱化カリキュラム、養成期間、教員の質的向上策、国家試験ガイドライン、卒業後の生涯学習について研究結果を示した。3名の発言後ディスカッションが行われた。国家試験の全国統一化についての質問に対し、瀧口徹歯科保険課長からは実技試験は絶対不可欠であり、実施するため厚生科学研究で出題基準、採点基準等の検討を行っている旨回答があった。1学級35名以下の省令についての猶予期間についての質問には、末瀬一彦全技協会長から既に省令が施行されているため協力をお願いする旨の要請があった。また、学生による臨床実習の実施の是非についての質問には、瀧口徹歯科保険課長から法解釈が適正であれば実施可能との返答があった。

5月16日（金）は9時30分より総会が開催された。（下河辺学長、佐野教務部長、藤口助教授出席）大塚弘介副会長（東京歯科技工専門学校校長）の開会の辞の後、末瀬一彦会長が挨拶し、質が高く、社会に受け入れられる歯科技工士を養成するための努力要請、1学級定員35名の厚生労働省省令に対する協力要請、全技協開催の各研究会への参加要請、ならびに、歯科技工士国家試験の全国統一試験の実施に向け検討中である旨の報告があった。また、全技協を法人化する為、中村道雄新東京歯科技工士学校校長を委員長とした協議が開始されたとの報告があった。ついで、来賓挨拶として、中西茂昭日本歯科技工士会会長が立ち次期参議院選挙への立候補にむけて協力の依頼があった。

中村道雄新東京歯科技工士学校校長が議長に選出され、議事に入った。

初めに阪秀樹副会長（埼玉歯科技工士専門学校理事長・校長）より平成14年度の総会、理事長・校長会議、教務主任会議、教員講習会、実技研修会、歯科技工士国家試験問題集の編集・発刊、教本教材の斡旋、その他として地区会議報告、理事会報告、役員会報告、会長会務報告があり原案通り承認、可決された。ついで、議事に入り、第1号議案として平成14年度収支予算案について、山本哲典会計理事（滋賀県歯科技工士専門

学校）より提案理由の説明があり、原案通り承認、可決された。2号議案として阪秀樹副会長より、平成15年度事業計画案が示され、原案通り承認、可決された。3号議案の平成15年度収支決算を、山本哲典会計理事が報告し、原案通り承認、可決された。4号議案は全技協に多大な貢献があった先生に対し、感謝状を授与する旨の提案があり承認、可決後、大森 三生（京都歯科医療技術専門学校）浮田 恵司（愛知学院大学歯科技工士専門学校）の2先生へ感謝状が手渡された。

閉会の辞を田上順次理事が述べ総会を終了した。

ついで、第1日目に行われた教務主任会議の報告が各グループの書記の先生から行われ、11時30分に会議は終了した。

総会終了後の12時30分より、文部科学大臣指定校での共通問題を討議するため指定校の14校中11校が参加（オブザーバー：神奈川歯科大学附属歯科技工専門学校）した歯科技工士学校連絡会議が開催された。本学より下河辺学長、長谷川教授、佐野教務部長、藤口助教授が出席した。内容は就学年数、国家試験統一試験、学生の臨床実習、教員資格等についての方向性を決めるために今後も協議していくこととし、また、教育のあり方、就職・求人関係等の情報交換をすると決議して14時に終了した。

附属歯科診療所歯科技工室の活動

井上 篤¹⁾、野村 章子^{1,2)}、高見 大介¹⁾

附属歯科診療所歯科技工室¹⁾、歯科技工士学科²⁾

平成15年10月1日より、歯科技工室長（野村）および沖歯科工業からの出向歯科技工士2名（高見、井上）による附属歯科診療所歯科技工室としての業務を開始した。そこで、歯科技工室での歯科技工物製作に留まらず、診療、教育、研究における各関係者との連携を大切にし、質の高い歯科技工、教育を目指して現在まで行ってきた活動について報告する。

1. 活動

歯科技工

- ・平成15年10月1日より診療所歯科技工物を学内で製作する体制へ移行するための資料作成と打ち合わせ。
- ・診療所歯科技工物の模型の確認と配当*¹⁾。
- ・診療所歯科技工物に関しての歯科医師との打ち合わせ。必要に応じて製作予定表*²⁾の作成。
- ・診療所歯科技工物の製作。